

アブゾーブ
Absorb® 生体吸収性冠動脈ステント

治療ガイド

アブゾーブ
Absorb GT1 生体吸収性スキャフォールドシステム

担当医師の方へ

本「治療ガイド」には、販売名：アブゾーブ Absorb GT1 生体吸収性スキャフォールドシステム（以下、アブゾーブ Absorb® ステント）を用いた治療について患者様にご理解いただきたい以下の重要事項が記載されています。治療・治療後の注意点について患者様のご理解を深めるために本「治療ガイド」をご利用ください。

また、別途配布しておりますアブゾーブ「Absorb® ステント手帳」を患者様にお渡しください。

患者さまに留置されるアブゾーブ Absorb® ステントについて

- メリットとデメリット

こうけっしょうばんやくふくよう 抗血小板薬服用に関する注意

- こうけっしょうばんやくふくよう 抗血小板薬服用の重要性
- 血液検査の重要性
- 出血を伴う治療に関する注意
- 患者様にお渡しする手帳等

患者さまに留置されるAbsorb[®]ステントについて

+

メリットとデメリット

+ メリット

- Absorb[®]ステントは、血管の治療したところが再び狭くなりやすく、再治療が必要になる可能性が低くなります。
 - Absorb[®]ステントは、留置後に時間をかけて体内に吸収されます。
- ※ステント位置の確認のための非常に小さなプラチナ製マーカーは血管内に残ります。

- デメリット

- Absorb[®]ステントによる治療では、長期安全性及び有効性が十分には確認されていません。また、今までの治療法に比べてステントに血栓(血のかたまり)が付着したり(血栓症)、心筋梗塞等のリスクが高くなる可能性があります。
- 本邦で実施されたAbsorb[®]ステントとXIENCE[®]薬剤溶出ステントを比較した臨床試験(AVJ-301治験)において、血栓症の発生率は、2年間でAbsorb[®]ステントは3.1%(8/257)、XIENCE[®]薬剤溶出ステントは1.5%(2/130)でした。また、心筋梗塞の発生率は、2年間でAbsorb[®]ステントは5.4%(14/261)、XIENCE[®]薬剤溶出ステントは3.1%(4/130)でした。
- Absorb[®]ステントによる治療に伴い、ステントに血栓(血のかたまり)が付着することを防ぐために薬(抗血小板薬)を術後少なくとも12か月間服用することが推奨されています。
- 抗血小板薬による重篤な副作用を未然に防ぐため、医師の指示に従い血液検査が必要になる場合があります。また、抗血小板薬を服用すると、出血した際に血が止まりにくくなります。

医師の指示に従い、薬を服用し、血液検査を受けてください。
患者さまの判断により、薬の服用を止めないでください。

- Absorb[®]ステントには、血管の治療したところが再び狭くなることを防ぐ目的で薬が塗られています。子供を儲ける予定のある方(男性及び女性)へのこの薬の影響は確認しておらず、生殖への影響が不明なため、以下のことをお守りください。

本品留置前から男女とも効果的な避妊を行い、留置後12か月は続けてください。

抗血小板薬服用に関する注意



こうけっしょうばんやくふくよう

抗血小板薬服用の重要性

医師から処方される薬（抗血小板薬）は、血栓（血のかたまり）をできにくくします。血栓ができてしまうと冠動脈の血流が悪くなり、胸痛が起きたり、狭心症や心筋梗塞が再発したりする可能性があります。

処方された薬は、医師の指示を守って服用してください。



血液検査の重要性

抗血小板薬服用により出血、血栓性血小板減少性紫斑病、重篤な肝障害等の重い副作用が起こることがあります。

これら重い副作用を未然に防ぐために、**医師の指示に従い血液検査を受けて下さい。**

血液検査により、自分では気付くことができない体の反応や副作用の兆候を調べることができます。健康的な生活を送るためにも非常に重要ですので、医師の指示に従い血液検査を受けてください。

Absorb[®] スtent手帳に記載の抗血小板薬の副作用についてもしっかりと目を通し、**体調に変化が現れた際は、直ちに医師にお知らせください。**

指示された血液検査を受けていない、転院先で行われない場合は、医師にお知らせください。



出血を伴う治療に関する注意

こうけっしょうばんやく ふくよう

抗血小板薬を服用すると、出血した際に血が止まりにくくなります。内視鏡検査・抜歯・手術など

出血を伴う治療を受ける際は、事前に担当医師へ生体吸収性stentを留置していること、及び

こうけっしょうばんやく ふくよう

抗血小板薬を服用中であることを申し出てください。

こうけっしょうばんやくふくよう

抗血小板薬服用の必要性や治療の優先度など、医師による考慮や判断が必要となってきます。

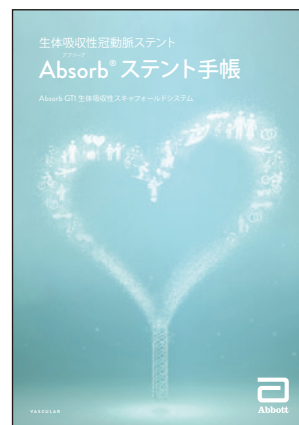
抗血小板薬服用に関する注意

患者様にお渡しする手帳等

アブゾーブ

Absorb® スtent手帳

この手帳には、日常注意すべき点などが記載されています。内容をしっかりと把握すると共に、カードと併せて常に持ち歩いてください。患者さまに留置されたstentに関する情報が「抗血小板薬服用カード」よりも詳しく記載されており、医師や歯科医師、薬剤師が患者さまの薬の飲み合わせ等について考慮するために必要となりますので、診療や調剤等を受ける場合は必ず提示してください。

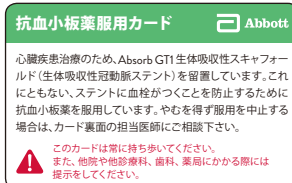


こうけっしょうばんやくふくよう

抗血小板薬服用カード

アブゾーブ

Absorb® スtent手帳のケース内側には、抗血小板薬服用カードが入っています。このカードは、患者さまが抗血小板薬を服用しているということを知らせるカードですので、常に持ち歩いてください。



これら「カード」と「手帳」は、医師や歯科医師、薬剤師にも大切な情報となりますので、医療機関・薬局で必ず提示してください。

こうけっしょうばんやくふくよう

「抗血小板薬服用中」シールについて

アブゾーブ

Absorb® スtent手帳のケース内側には、「抗血小板薬服用中」と記載されたシールが入っています。このシールは、患者さまが抗血小板薬を服用しているということを知らせるためのものです。患者さまがかかる他院・他診療科・歯科の診察券にこのシールを貼ってください。診察券以外にも、自分を証明するものに貼ることをおすすめします。

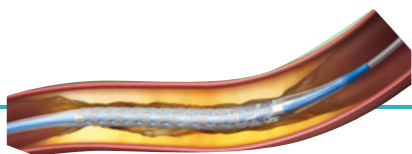


ステント治療の作用過程

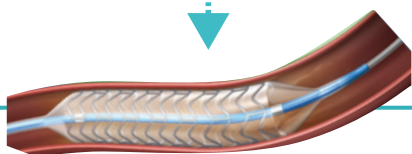
ステントには金属ステントと生体吸収性ステントの2種類があります。

治療の
選択肢

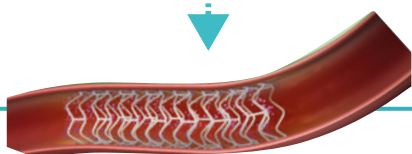
金属ステント



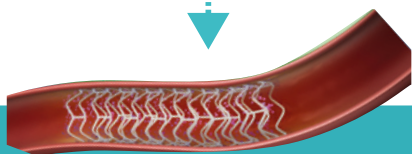
カテーテルが血管内の病変部分まで進められます。
ステントはカテーテル先端のバルーン部分に
備えつけられています。



バルーンが膨らめられると、ステントが膨らみ、
プラークが血管におしつけられます。



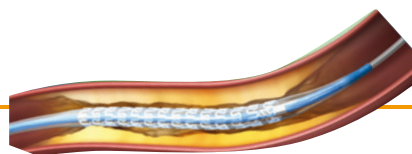
バルーンはしぼめられて体外へ引き抜かれ、
ステントだけが血管内に残ります。狭くなっていた血管は
膨らまれ、血液が再び流れるようになります。



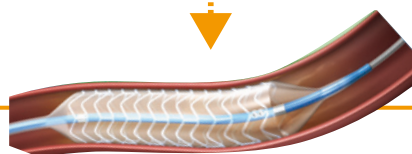
金属ステントは血管内に永遠に残ります。

治療の
選択肢

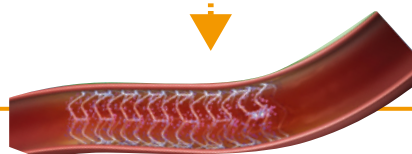
生体吸収性ステント



カテーテルが血管内の病変部分まで進められます。
ステントはカテーテル先端のバルーン部分に
備えつけられています。



バルーンが膨らめられると、ステントが膨らみ、
プラークが血管におしつけられます。



バルーンはしぼめられて体外へ引き抜かれ、
ステントだけが血管内に残ります。狭くなっていた血管は
膨らまれ、血液が再び流れるようになります。



生体吸収性ステントは、留置後に
時間をかけて体内に吸収*されます。

*ステント位置の確認のための非常に小さなプラチナ製マーカは血管内に残ります。
これは、血管のどの場所に生体吸収性ステントが留置されたかを医師が判断する目安となるものです。
生体吸収性ステントがどこに留置されたかを知ることは、ステント留置後の定期的な再検査を行ううえで
重要です。

製造販売業者

アボット バスキュラー ジャパン株式会社

本社：〒108-6304 東京都港区三田3-5-27 住友不動産三田ツインビル西館 4階

www.AbbottVascular.jp

Absorb and Absorb GT1 are trademarks of the Abbott Group of Companies.

© 2016 Abbott. All rights reserved. (JZ-0034-01)

